

儀間比呂志・絵本の魅力

齋木喜美子さん（関西学院大学教育学部教授）が紙上演



儀間比呂志氏
(2012年当時)

恒例の新春講演会（関西美術家平和会議主催）はコロナ禍で中止しましたが、平美新聞紙上で、関西学院大学教育学部教授の齋木喜美子さんに講演会に替わる寄稿をいただきました。齋木喜美子さんは一昨年、関西平和美術展に、ご自身の研究に関わる儀間比呂志の大阪での活動について、お問い合わせ頂いたご縁により、お願いいたしました。今春に著書『沖縄児童文学の水脈』（関西学院大学出版会）を刊行されたお忙しい中、執筆して頂きました。（本文は2〜3頁へ）



2021年3月

第34号

関西美術家平和会議
広報部発行

■事務局 / 〒530-0054
大阪市北区南森町2-2-14
TEL 080-8516-7205
FAX 06-6311-1238

コロナ禍を乗り越えて

関西美術家平和会議運営委員長 坪井 功次

感染の兆しが伝えられた頃、暫く夢想にふけた……。世界中の医療機関が国境を越えて連携し、先進国は貧困に喘ぐ国々に手を差し伸べる。全世界のコロナウイルスを撲滅した連帯は紛争解決へと動き世界は平和へと進む……。

甘い夢は無残に碎かれ、政府の対応の遅れは医療や生活など、社会的弱者への歪みが一挙に噴出し、感染対策を口実にした個人を縛るもくろみにも危険を感じます。混迷する社会にあつて、改めて創作することの意味が私達に問われているように思います。一輪の花に、今だから感じる想いを形にして人に託



カット 吉田朋子

す。それぞれの想いの交流が次々と新たな拡がりとなる。文化芸術は、物質ではなく、心を豊かにするものと信じます。私達の持てる力で感染に注意しながら、困難に対峙した創作でコロナを乗り越えましょう。

関西平和美術展維持募金のご報告 ありがとうございました

第99回関西平和美術展実行委員会・関西美術家平和会議

昨年、平美新聞紙上展とともにお願いいたしました関西平和美術展維持募金は2021年2月9日現在121名（例年、平美展目録広告に協力していただいたいる団体・鑑賞者を含む）の方から46万1472円が寄せられました。この使途につきましては、今年の実行委員会で協議いたします。

なお、昨年の平美展に関わる支出は事務所設置費14万円、平美新聞紙上展印刷費9万3000円、平美展関係発送費15万円（その他の事務的な経費は除く）でした。皆様の浄財で大きな赤字を生じることなく2021年の平美展の準備が出来ますことを感謝申し上げます。

1月22日、人類史上初めて核兵器を違法とする国際法である核兵器禁止条約が発効しました。歴史的な条約を力に「核のない世界」へと進む新しい時代が始まりました。2月の時点で51ヶ国が既に批准していますが、核保有国は、いづれも、条約への参加を拒んでいません。さらに核兵器廃絶の先頭に立つべき

日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求めましょう

き唯一の戦争被爆国である日本の政権の70%が条約への参加に賛成です。日本が、世界の流れに背を向けて、米国の「核の傘」の下で条約参加を拒むことは許し難い態度です。世論調査で国民を心よりお願いします。（山中成子）

2021年 平美新聞紙上演説会

儀間比呂志・絵本の魅力

関西学院大学教育学部教授 齋木喜美子



「儀間比呂志・絵本の世界」展の儀間比呂志
(2012年11月 沖縄県ウルマ市伊計島)

絵本作家・儀間比呂志の絵本の魅力

儀間比呂志(1923〜2017)は沖縄を代表する美術家で、敗戦後に大阪市立美術館付設美術研究所で6年間油絵を学んでいる。70年代以降、木版をおもな表現手法としてきたため一般には版画家としての印象が強いかもしれない。だが同時期から刊行し始めた絵本は2013年の『津堅赤人(ちきんあかつちゆ)』で32作品にもおよび、創作昔話の絵本作家として評価されている。トレードマー

クのベレー帽をちよこんと被り、大阪弁でエネルギーシユに沖縄を語る口調も、人々の記憶に刻まれているのではないかと思う。せっかく紙面をいただいたので、今回は儀間絵本の特徴と作品の魅力について書いてみたい。

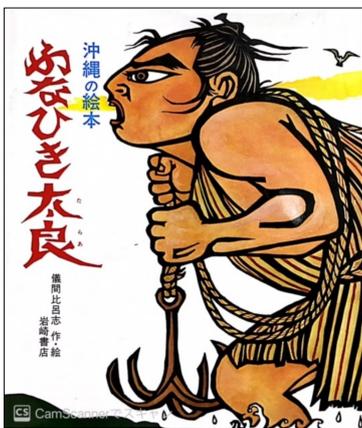
絵本作家・儀間比呂志の誕生

そもそも儀間が絵本を描こうと思ったのは、沖縄の施政権返還が目前に迫った70年初頭である。世間では「沖縄、沖縄」と言わぬ

日はないくらいに沖縄問題が盛り上がっているにも関わらず、当時画塾で教えていた子どもたちは沖縄について何も知らず、「オキナワってアメリカか？」と問うことさえあったという。そのことに大変なショックを受け、何とか沖縄のことを子どもやお母さんたちに伝えたいと考えていた矢先、岩崎書店の編集者が沖縄絵本創作の話を持ち掛けてきたのだという。こうして両者の思いから生まれたのが『ふなひき大良』であった。昔話をベースに儀間の創作を加えた本作は大変な評判をよび、この年の毎日出版文化賞を受賞した。華々しいデビューであった。

儀間の沖縄絵本のテーマ

儀間の沖縄絵本のテーマは大まかに次の3つに分類することができる。まず第一に沖縄の伝統行事、信仰、歌謡、伝承などをモチーフにした作品、第二に沖縄の過酷な歴史(日本本土による圧政や台風、飢饉、戦争など)を描いた作品、伝説や歴史上の人物を主人公にした作品である。いずれにも沖縄の豊かな自然、生活や文化がきめ細やかに描かれ、民衆の逞しさや優しさ(方言で「肝清(ちむちゅら)さ」)がテーマとなっている。「土着性」「郷土性」はすべての絵本の根幹をなす儀間の信条だが、表現は木版だけでなく水彩画で繊細な線と色遣いを表現したり、コンピューターグラフィック



を活用したりと多彩で柔軟である。しかし沖繩の昔を描いた絵本が多いせい、今では絶版になってしまった作品も散見される。本土復帰から50年近くも経ってしまった現在、儀間絵本に描かれた昔話の世界は沖繩の子どもたちでさえ理解が難しいのだろうか。

儀間比呂志・ 絵本の世界展

そんなことを考えていた折、沖繩県うるま市伊計島で「儀間比呂志の絵本の世界」展（2012・13年の2回開催）を企画する機会を得た。絵本展では通常、原画をキャプションとともに展示するが、この絵本展では原画だけでなく儀間の制作過程から作品完成までを写真や仕事道具とともに紹介した。また絵本に描かれている農作業や漁業、機織りの仕事道具を絵本の大型パネルの前に配し、当時の着物や住居の様子を再現

したりもした。展示を巡りながら子どもたちはあたたかも絵本の中に入り込むような体験をし、そののちに読み聞かせを楽しんだ。そのせいか同伴の祖父母も共に絵本世界や儀間の仕事を五感で感じ、世代を超えて会話が弾んでいたのが印象的であった。

絵本の力

こうした体験が継続的な読書につながるかどうかはもう少し検証が必要だが、画家の眼が正確にとらえた沖繩の人々の素朴な暮らしや、絵本に向かう姿勢の真剣さは幼い人たちにも十分伝わったようである。儀間自身も終始笑顔で展示を楽しんでくれた。絵本展を通して感じたことは、美術家が真剣勝負で挑んだ仕事には必ず訴える力があるということであった。子どもたちの心を惹きつけた儀間絵本の魅力は、郷土に対する思いだけでなく大人の鑑賞

2012年11月「儀間比呂志・絵本の世界」展光景



(1～3頁の写真は筆者提供)

にも耐えうる確かな表現力にあった。「沖繩を子どもたちに伝えたい」という儀間の一途な思いは、『ふなひき太良』から50年経った今も力を持ち続けていたのである。

平美術新聞編集部調べ（図書館で貸出や閲覧可能な儀間比呂志 沖繩の絵本、沖繩の民話等）☆ふなひき太良☆赤牛モウサー☆へこき三良（出版社共に岩崎書店）☆かえるのつなひき☆りゅうになりそこねたハブ（福音館書店）☆石になったマーパー（ほるぷ出版）☆儀間比呂志絵本の世界☆儀間比呂志の沖繩・版画集（海風社）他

平美術ホームページ 担当者日誌

今回の平美術新聞紙上演講会で儀間比呂志さんを中心とした特集が組まれました。あらためて「関西平美術展の50年のあゆみ」で調べると、第1回展に儀間博として「ビールとガール」「琉球模様」の2点を出品されています。7回展では儀間比呂志となりました。

儀間さんも出品されていた平美術、何やら誇らしく思いました。「読者の広場」では、紀行文や情報なども紹介いたします。皆様の日頃の声など、ご投稿お待ちしております。(k)

第69回関西平和美術展
2021年8月3日～8月8日
大阪市立美術館
 搬入 8月1日(日)
 搬出 8月9日(月)

コロナ禍でも平美展出品者と 共に活動に取り組む

関西美術家平和会議総会

21年度の総会はコロナ禍で開催を躊躇いたしました。が、新たな状況での活動確認のため、感染予防を徹底して昨年の12月13日にエル大阪で行いました。今年も関西平和美術展に向けての準備を滞ることなく取り組むことを確認いたしました。

念願の核兵器禁止条約の発効に伴い、日本の条約批准を求める署名や平和憲法の改悪の策動に引き続き平和を守る活動と呼びかけることなども確認しました。

総会特別決議として学術会議問題について、菅義偉内閣総理大臣宛に「日本学術会議会員任命拒否の撤回を求めます」の抗議文(全文は平美ホームページに紹介しています)を送付しました。

また、美術をとおした平

和運動や会が主催する関西平和美術展・写生会・講演会などを充実させるために、平美展出品者とともに力を尽くし、そのなかで関西美術家平和会議を知っていた

などを申し合わせました。
(二人会などのお問い合わせ先)
Tel 090 (3279) 0623



1972「平美と私」

柏木みどり

(彫刻)

72年の「平美・友の会」の日曜教室の案内に使われ



腐りきった政権はもう御免

宮脇 達

た玉造美術研究所の土曜の午後のクロッキー会の写真です。まん中がわたし、後ろは故・久保庭佳代子さん、右手は浅野義浩氏。当時、仕事と組合活動で、唯一の勉強の場でした。



憧れの平和美術展へ

遠田 悦子

(絵画)

54歳で早期退職して憧れの平和美術展への出展もありませんでした。が、自分は何を描けば良いのか悩む日々でした。又、平和行進に行動参加する中もありました。新春講演会の百瀬邦考さんのお話で心たたくものに出会いその感性を失わないようにすること、そして

自分の立ち位置で描けば良いのではないかとのお話に感動し共感し励まされました。

核兵器禁止条約が発効された、今を生きています。これからも、愛と平和をテーマに作品と向かい合っていきたいと思います。

みんながって、

皆んない

栃尾 惇

(絵画)

伝統ある平美展の開催が、例のコロナ騒ぎで初めて中止になり、目標を失ったように落胆しました。しかし、よくよく考えてみると作品を「かくあるべき、ねばならない」と考えていたのを「みんながって、皆んない」に代っているように思えました。

小脳の病気で、今までやっていた事がすぐに出来なくなつたせいかも知れませんが、「ゆっくり、ボチボチ」やっつけていこうと思つています。

*お詫ひ

昨年発行の平美新聞紙上展で前田尋さんの切り絵が左右反転し、松本稔さんと米山君江さんの絵が入り替わっていました。お詫びして訂正いたします。



「降りしきるⅢ」 前田 尋



「大原の里」 米山君江



「瓶と野菜」 松本稔